

合掌村 円空館

仏教の修道僧だった円空（1632～1695）は、木で仏像を掘ることに一生をささげました。生まれた場所は現在の岐阜県ですが、日本中を旅して回り、生涯にわたって 120,000 体もの仏像を彫ったと推定されています。それらのうち現在も 5,300 体以上が残っていることが分かっています。その多くは日本の中央に位置する地域で発見されていますが、北は北海道、南は奈良でも見つかっています。そのように広い範囲に分散しているのは、円空が旅の先々で助けを差し伸べてくれた人たちのために仏像を掘ったためだと言われています。合掌村にある円空ギャラリーには、それらの仏像のうち約 35 体が保存されています。円空は廃材や製材されていないシンプルな丸太など、自分で見つけたさまざまな木材を利用しました。その作品には安らかな表情が表現されており、多くの人たちに愛される特徴となっています。